

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
北海道厚沢部町	・ 農業の生産自治体でありながら、子育て世代に安価で安定的な食料の供給ができていない課題に対し、特に厳しい「米生産」に着目し、地域内需要にもしっかり結び付け農業も支えようという提案。また、「保育園留学」で注目されている厚沢部町ならではの提案。専門家も、地元根ざした人材であり、他地域へのモデル性も期待できる。 ・ 子育て家庭に地元産のお米をギフトとして送る小さい地域循環事業ではあるが、経済、社会、環境という好循環が期待できる。この小さい取組こそが実用性が高く横展開の可能性も大きい。 ・ 厚沢部町の提案は小さな規模の事業であるが、提案書から取組への熱意がうかがえ、事業の効果もあると考える。厚沢部町の子どもたちの笑顔が見える良い事業である。最初の一步を踏み出す内容であり、地方創生SDGs課題解決モデル都市の制度の趣旨にふさわしい提案と考える。小さな事業であっても取り組んで良いのだという、他自治体に対しての見本になると思う。 ・ 子育て支援のお米送付システムはどのように自律するのか。 ・ 事業経費は、専門家の派遣より事業への補助が主目的と思われる。 ・ 遠方からの専門家派遣ではなく、地元の専門家を活用するものと認識している。そのため、委託費の多くが事業費に充てられている。 ・ 専門家派遣と事業内容の結びつきが重要であると考え。厚沢部町の提案は専門家派遣と事業内容がリンクしておらず、違和感がある。 ・ 厚沢部町の提案は、地元の専門家に派遣を依頼するものであるが、専門家派遣と事業内容がリンクしておらず、事業費の建付けがいびつなためネガティブな印象を受けてしまう。専

門家の役割を明確化し、専門家が入ってどのように事業を行うのかストーリーを整理してほしい。

- ・専門家の役割を明確化していただくことが望ましい。
- ・事業経費のみを見ると補助金を米の購入費に充てるといった印象を与えてしまうが、地域の中でお金が循環しておらず、米農家が存続の危機に面しているという現状に対して、域内でのお金の循環を作り出すための最初の仕組みとなると考える。経済的循環と子育て支援というストーリーが整理されると SDGs の観点からも良いと考える。
- ・自治体内でアイデアの検討が進んでいるため、SDGs 未来都市の制度に提案いただくのも一案である。
- ・事業経費が補助金用途に含まれることは問題ないが、300 人にお米を贈る一度きりの取組のように見受けられるため、SDGs の課題に対して解決策を他地域にも展開できるような専門家の派遣を検討いただくのも一案である。
- ・子育て世帯数が記載されていないが、少数の子育て世帯への米ギフト制度による人口減少や農業産出力低下への効果は極めて限定的。抜本的な対策が望まれる。
- ・子育て支援ギフトとして子育て世代に米を送る、という一過性のように思える事業よりは、保育園や小中学校、その他公共施設等からまず地域の米を優先的に消費し、地域ぐるみで米農家を支えることにつながる仕組みづくりを考えていただく方が SDGs につながる提案として納得のいくものになるのではないか。